鴨川市地域公共交通会議平成24年度第2回会議 会議録

日時：平成24年12月20日（木）
午後1時30分～3時40分
場所：市役所7階会議室

〔出席委員〕

摘要	所属・職	氏名
会長	鴨川市 副市長	石田 日出夫
1号委員	社団法人千葉県バス協会 専務理事	花崎 幸一
	鴨川日東バス株式会社 常務取締役	鈴木 孝男
	小湊鐵道株式会社 常務取締役	久我 義範
	有限会社鴨川タクシー 専務取締役	本多 信介
2号委員	鴨川日東バス株式会社互助会	西川 裕治
3号委員	国土交通省関東運輸局 千葉運輸支局 首席運輸企画専門官（輸送監査）	池田 和弘
4号委員	千葉県安房土木事務所 鴨川出張所長	西川 正治
	千葉県鴨川警察署 交通課長	藤代 宣明
5号委員	利用者代表（公募委員）	小高 好宏
	利用者代表	手塚 治代
	利用者代表	里見 桂子
	鴨川市心身障害者福祉作業所 所長	渡辺 栄一
	鴨川市校長会 校長	滝口 弘

〔欠席委員〕

なし

〔オブザーバー〕

所属・職	氏名
千葉県総合企画部交通計画課 企画調整班 副主幹	轟 洋子

〔事務局〕

所属・職	氏名
鴨川市企画政策課 課長	杉田 至
鴨川市企画政策課 課長補佐	大久保 孝雄
鴨川市企画政策課 政策推進係 主任主事	町田 啓

〔資料〕

- ・ 次第
- ・ 席次表
- ・ 出席者名簿
- ・ 資料14 有料広告の導入について（その2）
- ・ 資料15 清澄ルートの見直しについて
- ・ 平成24年7月1日以降における南ルートの運行状況について
- ・ （会議中配布）清澄ルートの見直しに係る実施スケジュール（予定）
- ・ 鴨川市地域公共交通会議 平成24年度第1回会議 会議録

1 開会（午後1時30分） 司会 杉田企画政策課長
配布資料の確認。

2 会長あいさつ

（要旨）

皆様ご多忙の折にも関わらずご出席いただきありがとうございます。

後ほど実績報告もあろうかと思うが、7月1日をもって施行した南ルートの見直し結果については、お蔭様で一定の効果が表れており、昨年度のこの会議において皆様にご審議いただいた賜物と、感謝いたします。

本日は、清澄ルートについてご検討いただく予定としているが、引き続きよろしくご審議願いたい。

また、昨日から市内の高校に関するニュースがマスメディアを賑わせているが、必要以上の表現がなされており誠に遺憾に感じている。公共交通との関係で言っても、例えば利用者として、間接的に影響があらうかと思うが、今後、関係者との協議を重ね、再建に向けて進めていきたいと考えているので、皆様のご理解・ご協力をお願いしたい。

3 議事 議長 石田会長

鴨川市地域公共交通会議設置要綱第5条第1項の規定により会長を議長として進行。

議事録署名人として、滝口委員を指名。

議事 1 有料広告の導入について

事務局から、資料14に即して説明。資料のとおり確認された。
委員からの質疑、意見なし。

議事 2 清澄ルートの見直しについて

事務局から、資料15に即して説明。資料のとおり承認された。
委員からの発言等については、次のとおり。

(本多委員)

資料のとおりデマンド運行を導入した場合、どの程度運行経費の節減を図ることができるのか。

(事務局)

平成23年度の運行実績に基づくと、デマンド化の対象便・対象区間で乗車された方は年間で延べ500～600名の間であり、1日当たりでは1.5～1.6人となる。

この数値に基づいて試算すると、デマンド化による直接的な経費の節減は年間40万円程度である。これに加えて、乗務員の負担が相当程度軽減されると考えられることから、現在の1日2人体制を1人体制とし、この部分で年間約200万円、合わせて240万円程度の節減を見込んでいる。

(久我委員)

池田委員にお尋ねしたいが、一般の路線バスでも、乗車があまり多くない区間について、この例のようにデマンド化することは可能か。

(池田委員)

申請があり、運行計画に盛り込んでもらえれば可能である。

但し、国県補助を受けている路線であれば、協議が必要になるものと認識している。

(花崎委員) 横浜の方で、要請があった場合のみ基本路線から少し離れた住宅地を経由する運行方法を採用している例がある。

(鈴木委員) 当社では、一般乗合で鴨川駅西口から城西国際大学観光学部に向かう大学線を運行しているが、基本路線から約200メートル入ったところに早稲田大学のセミナーハウスがあり、この施設への乗り入れをデマンドにより実施している。運輸支局にも申請を行ったが、千葉県では第1号と聞いている。

乗務員への要請・または事前予約により実施しており、1日7回のうち、2～3回はデマンドによりセミナーハウスまで運行している状況にある。

デマンドとしない場合に比べて間違いなく運行距離は少なくなるので、軽油の消費量を中心に経費の節減には効果的なものと認識している。

(久我委員) 例えば高速バスなどで乗車可能な停留所を全て通過し、かつ全ての乗客が降りてしまった場合、終点までの運行は不要となるか。

(池田委員) 折り返し等の問題がなければ、運行を中止する旨を運行管理者に連絡の上、車庫へ向かうということは可能。

(石田会長) 実際に大学線の乗務員として従事されている西川委員にお尋ねしたいが、デマンド運行によるトラブルなどはこれまでであったか。

(西川[裕]委員) これまでのところトラブルはなく、順調である。

(石田会長) 運行管理者へは、早稲田大学セミナーハウスの職員が連絡するのか。

(鈴木委員) お見込みのとおり、管理人から連絡が入っているようにしている。

(石田会長) 池田委員はどのような考えをお持ちか。

(池田委員) 効率的な運行という観点からは非常に良い方法だと思う。また、鴨川日東バスにおいて既に実績があるということから、運用面でもリスクは少ないように思う。

(鈴木委員) トラブルとしては、直前に電話が入り対応できないということが想定できるため、事前のルールづくりとその周知が大切になる。

(石田会長) 県全体から見て、県交通計画課の轟氏からのご意見を伺いたい。

(オブザーバー 轟氏) 他の市町村で聞いたことがなく、初めてこのような運行が可能なことを知った。運行キロ数が定まらないこうした運行は、国県補助路線であれば馴染まないと考える。

(事務局) 市が主体となって市内を運行する路線であり、国県の補助金を受けるものとは考えていない。市民の足となる便を可能な限り残しつつ、経費の削減にも寄与し、かつ利用者にとって分かり易く、そして清澄寺という観光資源にも配慮する、これらの諸条件を踏まえた上で検討した結果、このような運行方法をご提案させていただくこととした。

なお、仮に本日、この会議としての了承がいただければ、年明け早々にも、特に影響が大きいと思われる四方木地区の地元へ赴いて説明会を開催するとともに、これをはじめとして、所要の周知・手続きを行いたいと考えている。

※ 追加配布資料「清澄ルートの見直しに係る実施スケジュール（予定）」に基づき、事務局から周知・手続きに関する事項を説明

(石田会長) この場で了承が得られれば、今あった説明のように進めていければと考えている。なお、利用者が電話予約を行う際に要する電話代についてはどのようになるか。

(事務局) 現在、本年度の運行事業者とも協議を行っているところだが、事業所にフリーダイヤルの回線を引くと、予約以外の用件での電話が集中し、肝心の予約を目的とする電話が繋がりにくくなる事態も想定できる場所である。少なくとも予約専用の回線を新たに設けるといふところまでは行うことで予定している。

(滝口委員) 長距離バスなどでは、運転手の労働条件が厳しく事故に繋がる例もあるところだが、今回、清澄ルートの乗務員を2名体制から1名体制にするということであった。1名体制で運行するとして、拘束時間としては短くはないと感じるが、1名減とするのはどのような根拠に基づくものであるか。

(事務局) 国の法規において、乗務員の拘束時間は、基本が1日13時間、延長する場合でも16時間までであり、4週間を平均した1週間当たりの拘束時間では65時間以内とされている。1週間に5日間乗務したとして、1日当たりの平均は13時間以内という計算になる。

清澄ルートの改正案における乗務員の拘束時間は、車庫への回送分も含めて13時間8分となるが、例えば現在運行を委託している鴨川日東バスでも、毎日同じ乗務員が同じルートを担当するのではなく、日によって乗務する路線は異なるため、トータルで見れば法規が求めるレベルをクリアできるものと認識している。

(滝口委員) 実際の乗務は鴨川日東バスが行うのか。

(事務局) 本年度については、市が鴨川日東バスに運行を委託し、鴨川日東バスの職員が乗務するという形態で執行している。

議事3 その他

(1) 平成24年7月1日以降における南ルートの運行状況について

事務局から、配布資料「平成24年7月1日以降における南ルートの運行状況について」に即して説明。資料のとおり確認された。

委員からの質疑、意見はなし。

(2) 次回会議の開催予定について

(事務局) 次回会議については、関東運輸局への手続きに要する期間を勘案し、2月下旬までに開催させていただくことを予定している。本年度は2月議会となる公算が高いため、議会日程が固まり次第、追って書面にて通知をさせていただく。

(3) その他

(石田会長) その他として、全般的なことで意見等があればお伺いしたい。

(小高委員) 亀田病院でバスに乗ろうとした際、市コミュニティバスのパンフレットが見当らなかった。また、亀田病院は職員も相当数在籍しているが、皆自家用車を利用しているため、通勤時間帯には東条小学校の前の通りを中心に渋滞が発生している。バスを利用して通勤するよう働きかけてはいかがか。

(事務局) 貴重なご意見ありがたい。対応させていただくこととしたい。

(手塚委員) 誕生寺入口停留所から亀田病院までバスに乗車した場合、鴨川日東バスの市内線よりも市コミュニティバスの方が60円高い。

(事務局) 早急に調査を行った上で対応することとさせていただきたい。

(滝口委員) 亀田病院でバスの送迎を無料で行ったらよいのではないか。

(手塚委員) 職員によって出勤時間が異なるため難しい面もあると思うが、シャトルバスのようなものがあれば良いと思う。

(里見委員) 埼玉の大きな病院に行った際、玄関にバスを横付けしてくれた。このような取り扱いがあるとありがたい。

(石田会長) 高齢化がより一層進展していくにつれ、病院と公共交通との連携は、今後の大きな課題のひとつになるものと認識している。

ここまでの議論を踏まえつつ、総合的に県バス協会の花崎委員からご意見を伺いたい。

(花崎委員) 清澄ルートの運行見直し策については、素晴らしいものだと思う。このように運行の効率化を図っていくことは重要だと考える。

(石田会長) 関東運輸局千葉運輸支局の池田委員はどうか。

(池田委員) 非常によい運行策だと思う。

(石田会長) 県交通計画課の轟氏はどうか。

(オブザーバー 轟氏) バス広告の募集については民間事業者も苦勞していると聞いている。具体的な状況としてはどのようなになっているか。

また、市のコミュニティバスに限らず、路線バス全般に言えることだが、今後は、市民の意

識が変わるように機会を捉えて利用促進を図っていくことが非常に重要になると考えている。

(鈴木委員) 自社の広告について言えば、枠全体のうち、利用されているのは3割程度となっており、企業努力が必要なものと認識している。

(石田会長) バス利用の促進については、県としてのアピールもお願いしつつ、市としても出来る限りの努力をしていきたい。

4 閉会（午後3時40分）

以上

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により会議録の内容について確認します。

平成25年1月21日

滝口 弘